

前回のふいかえり(H30年度 第1回 4/26開催)



地域での“支え合い”の仕組みづくりに関するアンケート 結果



昨年、陽だまり～touch A LIFE～メンバーより、地域での困りごとやこれから必要となってくるものを把握するために「アンケートをとってみては？」との声がありました。そこで、高齢者や高齢者を支援する活動をされている方約800名を対象にアンケートを行いました。

今回は、このアンケートの結果から、気がついたことや感じたことをメンバーに出し合っていました。



<メンバーの声>

- 運転免許の返納の問題。返納後の生活は大変だと思う。スーパーになんとか行くことができても、帰りの荷物は重い。
- 家族と疎遠になっている近所の独居高齢者。車の運転に不安を感じているが、買い物や病院に行くにも、タクシーだとお金がかかるので運転を続けている。「何か買いにいきましょか？」と声をかけても遠慮される。親戚の人がきていたが、だんだんと回数が減ってきている。踏み込んだ関わりの難しさを感じる。
- 運転免許の切り替えができるなら、免許を持ち続けたい人がほとんど。頼める人がいればいいが、頼むのも気がひける。気兼ねなく行けることも大事。
- 予想していたよりも、乗り合いタクシーを利用したいという答えが多い。大刀洗校区での巡回バスはどうなった？他の校区でも動きがあってよいのでは？
- いぶき家で買い物支援を行っている。家族が同居でも頼めない人もいる。
- 停電時、1人暮らしの高齢者が泣きながら助けを待っていたことがあった。このようなときに対応できるネットワークがあったらいいな。
- 昔は移動販売車が回ってきていた。
- 郵便の集荷車が定期的に回っているので、この後部座席を活用して移動支援ができないか？ついでに郵便局で年金もおろせる。
- 幸生苑で、脳若トレーニング2クール移動支援を行った。どうしても自力で参加できない人のみを対象にしていたが、移動支援のニーズを感じた。
- 以前、テレビで社会福祉法人が、デイサービスの送迎車両を空き時間に地域に貸し出している取り組みが紹介されていた。地域と社会福祉法人の関係ができ、社会福祉法人の宣伝にもなると思った。



今回は、地域での“支え合い”の仕組みづくりに関するアンケート結果より、メンバーのみなさんが気づいたことや感じたことを共有しました。特に、「移動」と「買い物」については、メンバーの身近に起こっているエピソードもありました。

同じ大刀洗町の中でも、地域差があるという話は何度も出てきていましたが、アンケートの結果からも違いが見えてきているように感じています。今後は校區別に勉強会を開催できればと考えています。

(生活支援コーディネーター)

